

大倉工業株式会社 2025年12月期決算説明会 質疑応答

Q.【外部環境(説明資料 P18)】

合成樹脂事業における今後の原材料の調達方針と課題について教えてください。

- A. これまで国内からの原材料調達为中心でしたが、国内の化学プラントにおける再編や集約化の動きがさらに進み、それに伴い国内供給能力の低下が見込まれるため、現在は海外からの輸入原材料比率を高める方針で取り組んでおります。
- また、海外からの原材料調達に伴う運用上の課題にも対応しております。現在の一般的な原料輸送は800キログラムから1トン程度のフレキシブルコンテナバッグ(フレコンバッグ)ですが、海外からの供給では25キログラム程度のポリ袋で輸送されるケースが多く、フレコンバッグでの輸送は日本特有の形式とされています。このため、当社では25キログラム袋での原料受け入れ体制を強化すべく、投入作業のロボット化・自動化を進める取り組みを実施しております。これにより、多様な供給源から原料を調達する選択肢を増やし、調達リスクの分散を図ってまいります。このロボットは、今年中に一つの工場で試験的に導入を開始する予定です。

Q.【業績予想(説明資料 P19)】

2026年度の設備投資計画、特に大型投資の内訳について教えてください。

- A. 今年度の設備投資の総額は76億7千万円を計画しております。昨年度、一部の設備投資が前倒して実施されたため、一見すると前年度比で投資額が減少したように見えるかもしれませんが、M&A投資を含めると今年度の投資は相当な規模となる見込みです。
- 主要な大型設備投資計画としましては、まず木質構造材事業において、11.2億円の投資を実施します。これは一連の投資の最終段階にあたり、累積投資額は総額56億円となる見込みです。次に、農業分野向けマルチングフィルムのホール加工に関しては、2.8億円を投じ、レーザー加工設備を九州オクラに導入する予定です。この投資により、多様な品種のフィルムに対し、小ロットからの加工対応が可能となります。さらに、光学フィルムの設備改良については、生産能力増強を目的とした検討を進めておりますが、具体的な増強規模や時期に関しては、現在も精査を続けている段階です。

Q.【新規材料事業(説明資料 P22)】

2026年の新規材料事業の光学フィルムにおいて、顧客からの引き合い状況および今後の見通しについて教えてください。

- A. 同事業の売上増の大部分を占めるのは光学材料BUです。COPフィルム、アクリルフィルムを含む光学フィルム全般において、現在も顧客からの引き合いは堅調に推移しております。当社としてもこの旺盛な需要に対し、効率的な対応を強化し、当初計画以上の売上達成を目指してまいります。
- なお、光学材料フィルムでは、これまで製品グレードの切り替えや製品認定取得に伴う試作品製造が多かったため、収率が低下しておりました。しかしながら、この収率を約10%改善することを目標としております。収率改善に伴う材料費の削減を通じて、約3億円の利益改善を見込んでおります。

Q.【建材事業(説明資料 P23)】

リフォーム需要の今後の見通しについて教えてください。

- A. 国内の新設住宅着工件数は減少傾向にあるものの、リフォーム需要については、今後大幅な急増はないものの、昨年度と同程度の水準を当面の間維持すると考えております。特に、リフォーム市場全体の約30%を占める水回り製品は、当社が強みを持つ分野であり、安定した需要を見込んでおります。

Q.【事業戦略(説明資料 P25)】

中期経営計画(2027)で掲げている連結業績目標(売上高、営業利益、調整後 ROE)につきまして、現状における達成見込みの確度について教えてください。

- A. 売上高は、株式会社フジコーの連結子会社化が大きく寄与し、中期経営計画最終年度の目標値を今年度中に達成できる見込みです。
- 営業利益は、2026年の計画を65億円と設定しておりますが、最終年度の目標値である70億円に対しても、事業を取り巻く環境が今後大幅に悪化しない限り、達成可能な十分なポテンシャルを有していると認識しております。
- 調整後 ROE は、利益の増加に伴い、2025年には約8%と、前年度の5.6%から大幅に改善いたしました。これにより、最終年度の目標値は達成済みであり、今後さらなる向上を目指してまいります。

Q.【合成樹脂事業(説明資料 P26)】

株式会社フジコーが手掛けている半導体分野の具体的な事業内容について、教えてください。

- A. 株式会社フジコーは、特定のニッチ市場において顧客と直接取引を行う形で事業を展開しており、一般的な大量生産ではなく、専門性の高い分野に特化している点が大きな特徴です。特に半導体関連事業においては、半導体チップの製造工程で使用されるダイシング用フィルムの供給や、静電気による損傷を防ぐ帯電防止用のプライマーコーティング技術を手掛けております。これらの半導体関連技術に加え、自動車産業向けや情報電子関連分野にも幅広く技術提供を行っており、今回の買収は、当社が事業ポートフォリオ戦略として掲げる、プロセス材料や情報電子分野のさらなる強化を目的としたものです。

Q.【合成樹脂事業(説明資料 P27)】

株式会社フジコーの2025年営業利益見込みが5億円の営業損失となっている主な理由について教えてください。

- A. 主に退職給付引当金の計上など、当社グループの会計ルール適用に伴う一過性の費用が発生したためです。これらの費用は、連結会計への移行時に一度限り計上される性質のもので、この一過性の費用を除外した場合、株式会社フジコーの実質的な営業利益の実力値は5億円程度の利益であると認識しております。

Q.【事業戦略(説明資料 P30)】

オクラベトナムの事業開始が1年遅れとなった要因について教えてください。

- A. ベトナムにおける接着剤事業につきましては、特殊化学品を取り扱う事業特性上、原材料の輸入および製品製造に必要なライセンス取得が必須条件となっております。このライセンスを昨年11月に取得したことから、事業開始が当初計画より約1年遅延する見込みです。
- 現在、当社は生産開始に向けた準備を着実に進めるとともに、このベトナム拠点をアジア市場への事業拡大の重要な拠点と位置づけ、マーケティング活動にも注力しております。

Q.【事業戦略(説明資料 P31)】

R&Dセンターで取り組んでいる新規事業につきまして、進捗状況と今後の展望について、教えてください。

A. R&D センターにおける取り組みでは、特にライフ&ヘルスケア分野で顕著な進捗が見られます。この分野においては、細胞培養用のシングルユースバッグと手術支援ロボット用ドレープを主力製品と位置づけ、2030年までに売上高10億円以上への成長を目指しております。

具体的には、細胞培養用シングルユースバッグは、2028年頃からの本格的な事業化を目指し、現在開発を推進中です。また、手術支援ロボット用ドレープは、昨年より実績化しております。国内での手術支援ロボット導入の進展に伴い、当社のドレープへの需要は今後さらに拡大するものと期待しております。

このほか、ペロブスカイト太陽電池、電子基板向け液晶ポリマーフィルム、自動車用途向け接着剤といった研究開発テーマも進めております。外部環境を注視しつつ製品化を加速させ、次なる事業の柱を確立し持続的成長を目指します。

以上